1.公益社団法人3.11メモリアルネットワーク

東日本大震災の経験と教訓を未来へ継承し、次の災害による犠牲者をなくすことを目指して活動する民間組織（NPO・公益社団法人）です。東北各地の語り部団体や震災伝承施設、個人をつなぐネットワークづくりを進めるとともに、若い世代に向けた防災教育の推進や、被災地での学習プログラムの受入調整など幅広い活動を行っています。団体HP： https://311mn.org/

1-1伝承交流施設「MEET門脇」

上記団体が、宮城県石巻市門脇地区に開館した民間伝承交流施設です。津波と火災で大きな被害を受けた南浜・門脇地区に位置し、近隣の「石巻南浜津波復興祈念公園」や「震災遺構 門脇小学校」とあわせて巡る防災学習の拠点となっています。

1-2伝承サポーター（仮称）

東日本大震災の伝承活動は継続性の不安が課題となっており、そのために重要となる若い世代の参画が、各地で同時発生的に始まっています。公益社団法人3.11メモリアルネットワークでも、継続性のある新たな伝承活動を模索しており、その一環として「伝承サポーター（仮）」として、宮城県内の大学に通う学生が伝承活動に取組み始めています。

2.震災遺構　門脇小学校 【伝承サポーターの案内で見学】

旧門脇小学校は、海岸から約1キロメートルに位置する3階建ての校舎です。東日本大震災では津波による浸水に加え、流れ着いた家屋などから発生した津波火災により大きな被害を受けました。発災時、在校していた児童は全員無事に避難しましたが、下校後に被災した児童7人が犠牲となりました。現在は、津波と津波火災の痕跡を残す全国唯一の震災遺構として保存・公開されており、防災訓練の重要性や適切な避難行動について学ぶ場となり、2022年4月から一般公開されています。
参考：https://www.ishinomakiikou.net/

3.震災遺構　大川小学校 【語り部さんの案内で見学】

東日本大震災における津波被害で、全校児童108人中、74人の児童と教員10名が犠牲となりました。戦後最大の学校管理下で起きた事故といわれています。この事故は、多くの人々の心に深い傷を残すと共に、学校現場の防災体制や避難指示、広報・情報伝達体制など、日本全国の学校に共通する課題を浮き彫りにし、再発防止に向けた教訓として取り組むべき重要なテーマを伝えています。
参考： http://311chiisanainochi.org/?page_id=5 （小さな命の意味を考える会）
https://ikiru-okawafilm.com/ （映画「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たち）

3-2 元長面（ながつら）地区住民の案内による防潮堤見学

東日本大震災による津波で壊滅的な被害を受けた宮城県石巻市長面地区。死者・行方不明者は115人に上り、地盤沈下と堤防決壊に伴う長期浸水に見舞われました。その後、排水や盛土により陸地化が進められたものの、地区の大部分は居住できない災害危険区域に指定された。現在は海抜約8.4メートルの防潮堤（護岸）が整備されています。

4.髙橋 頼雄(たかはし　よりお)さん 【石巻市雄勝地区出身】

雄勝地区の元住民で、地域の伝統産業である「雄勝硯（すずり）」の三代目職人。東日本大震災の直後から地域住民のリーダーとして復興に尽力しました。避難生活を送りながらも、離ればなれになった住民が再び集う場として「おがつ復興市」を立ち上げ、実行委員長として多彩な企画の運営やボランティアの受け入れを牽引しました。現在は病により車いすで生活されていますが、石巻市内で一人暮らしを続けながら、日々の気づきや思いをSNSを通じて発信されています。参考：
https://kahoku.news/articles/20220129khn000018.html

5.一般社団法人　雄勝花物語【防災教育の受講・避難経路体験・ボランティア活動】

2011年3月11日の東日本大震災で発生した巨大津波により壊滅的な被害を受けた石巻市雄勝町の復興を目指し、「花と緑の力で」を合言葉に被災住民が立ち上げた復興プロジェクトです。2014年3月に法人化されました。
活動拠点である「雄勝ローズファクトリーガーデン」は、石巻市雄勝町の中心部に整備された庭園で、震災で亡くなられた方々を偲ぶ慰霊の場であるとともに、被災者と支援者が交流する憩いと癒やしの場となっています。
また、震災の教訓を伝える防災学習や語り部活動、写真展示などの震災伝承活動にも取り組んでいます。雄勝地域の復興を象徴する拠点として、多くのメディアに取り上げられています。
参考：https://ogatsu-flowerstory.com/

5-2雄勝地区慰霊公園（雄勝病院跡）

東日本大震災の津波により、この地にあった雄勝病院は高さ約16メートルの津波に襲われ、入院患者40人と病院職員24人の計64人が犠牲となりました。
本公園は、雄勝病院で亡くなられた方々をはじめ、雄勝地区で犠牲となられたすべての人々を追悼するために整備された慰霊の場です。震災の記憶と教訓を後世に伝え、訪れる人々が静かに祈りを捧げる場として建立されました。

5-3雄勝地区について

雄勝地区は、石巻市東部に位置する、漁業と雄勝硯で知られる地域です。2011年の東日本大震災では、最大約16メートルの津波が襲い、町の中心部が壊滅的な被害を受けました。多くの住宅や学校、病院などが流失・損壊し、200人を超える尊い命が失われました。また、人口は震災前の約4,300人から現在は約1,000人へと減少するなど、地域社会にも大きな影響を及ぼしました。現在は、震災の教訓を伝えながら、豊かな自然や文化を生かした復興が進められています。

6.一般社団法人BIGUP石巻　代表理事　いしのまき災害支援ネットワーク　代表理事　阿部 由紀(あべ　よしのり)さん

「BIG UP石巻」は、平成24年に設立されました。在宅被災者の支援活動をはじめ、地域との交流を図り祭り事や行事に積極的に企画や参加しながら、被災者を長期的に見守ることにより地域活性やメンタルケアを行ってきました。「いしのまき災害支援ネットワーク」は、宮城県石巻市を拠点に、防災・減災、災害対応、地域の防災力向上に取り組む団体です。
阿部さんは、東日本大震災が起こった時は石巻市社会福祉協議会の職員として、石巻市災害ボランティアセンターの運営で中心的な役割を担い、その後、石巻市内のボランティアセンター長などを歴任しました。退職後はBIG UP石巻に参画し、地域支援や災害支援活動に携わっています。現在は、特に全国各地の被災地へ赴き、豪雨災害や能登半島地震などの被災者支援や　災害支援の団体の研修講師などを務めています。□

7.生きる家プロジェクト

石巻市在住の彫刻家 ちばふみ枝氏が発起人となり、東日本大震災の津波被害を受けた実家を地域に開き、アートや対話を通じて震災の記憶を未来へつなぐ取り組みです。被災した家を単なる遺構として残すのではなく、人々が集い交流する「生きた場」として再生しています。